

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成26年7月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 人間・環境学研究科

職 名 教授

氏 名 田 村 類

助 成 の 種 類	平成26年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成		
事 業 内 容	「アジア結晶化技術シンポジウム2014」および「第11回有機物質の結晶成長に関する国際ワークショップ」合同国際会議の開催		
開 催 期 間	平成26年 7月17日 ～ 平成26年 7月20日		
開 催 場 所	奈良県新公会堂(〒630-8212 奈良県奈良市春日野町101)		
参 加 者	総 数 236人	内 訳 日本人134人 外国人(22カ国)102人	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム)		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	9,465,513 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 井上科学振興財団、日本粉体工業技術協会晶析分科会、奈良県ビジターズビューロー	
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	招待講演者旅費交通費	998,568	475,800
	HP制作管理・講演要旨集編集謝金	300,000	300,000
	奈良新公会堂使用料	2,177,344	224,200
委託料(参加登録・バンケット等)	4,461,167	0	
会場設営経費	586,548	0	
アルバイト料・通信運搬費	941,886	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 危うく赤字決済となるところでしたが、貴財団助成金のおかげで赤字をまぬがれることができました。厚く御礼申し上げます。		

成果の概要/田村 類

「アジア結晶化技術シンポジウム 2014 (ACTS-2014)」および「第 11 回有機物質の結晶成長に関する国際ワークショップ (CGOM11)」合同国際会議 (Joint Congress of ACTS-2014 & CGOM11)は、予定どおり平成 26 年 6 月 17 日～20 日の 4 日間、奈良県新公会堂で開催された。参加登録者数は 236 名、そのうち外国人登録者は 22 国から 102 名であった。会議は、基調講演 (各 40 分、8 件、1 会場)、招待講演 (各 30 分、16 件、パラレスセッション 2 会場)、口頭発表 (各 20 分、56 件、パラレスセッション 3 会場)、ポスター発表 (2 時間 40 分、145 件、1 会場) からなり、口頭発表とポスター発表については、予想をはるかに超える申し込みがあり、発表件数は合計 225 件となった。

討議題目を大きく「晶析技術」関連と「有機結晶化学」関連に二分し、前者を ACTS-2014 が、後者を CGOM11 が担当した。両会議に関心のある研究者が多いため、合同会議としたが、日程が限られていたため、口頭発表を 3 会場でのパラレルセッションとせざるを得なかった。

筆者は、CGOM11 の組織委員長として、プログラムの編成に当たった。過去 3 年間に亘って結晶化学の国際会議に出席して調査を行い、CGOM11 の基調講演者と招待講演者については、オリジナルな研究を展開して、現在世界の結晶化学や液晶化学を牽引している次の 12 名を選んだ。各講演タイトルも併記する。

基調講演者：

- 1) Kevin Roberts (University of Leeds, UK): “Synthonic Engineering: Molecular-Scale Tools for the Rational Design of High Quality Crystals for Pharmaceutical Formulation”
- 2) Jürg Hulliger (University of Berne, Switzerland): “Orientational Disorder: a Key to Understand Polarity Formation in Molecular Crystals”
- 3) Kenneth D. M. Harris (Cardiff University, UK): “New in-situ Solid-State NMR Techniques for Probing the Evolution of Crystallization Processes”
- 4) Takashi Kato (The University of Tokyo, Japan): “Self-Assembled Materials from Liquid Crystals to Organic/Inorganic Hybrids”

招待講演者：

- 5) Gérard Coquerel (University of Rouen, France): “Progress in Understanding (Predicting) the Behaviors of Molecular Solvates upon Desolvation”
- 6) Nora Ventosa (Institute of Materials Science of Barcelona, Spain): “CO₂-expanded Solvents: Unique Media for the One-Step Preparation of Micro- and Nano-1particulate Pharmaceuticals”
- 7) Elias Vlieg (Radboud University of Nijmegen, The Netherlands): “Using Crystallisation to

- Obtain Single Chirality”
- 8) M
ikiji Miyata (Osaka University, Japan): “Twofold Helical Molecular Assemblies with Right- or Left-Handedness in Organic Crystals”
 - 9) S
rinivasulu Aitipamula (Institute of Chemical and Engineering Sciences, Singapore): “Pharmaceutical Cocrystals for Enhancement of Drug Performance”
 - 10) M
asaki Kawano (Pohang University of Science and Technology, Korea): “How To Create Interactive Porous Coordination Networks ?”
 - 11) Lian Yu (University of Wisconsin-Madison, USA): “Engineering Organic Glasses through Surface Mobility”
 - 12) Stéphane Veesler (CINaM-CNRS, Aix-Marseille Université, France) : “Small-Volume and Localized Fields for Nucleation Understanding”

いずれの講演も議論が白熱し、コーヒープレイクや昼食時間まで質問が食い込むことも多かった。また、口頭発表の内容も最先端のテーマに関するものが多く、盛況であった。

今後、今回の合同会議の講演内容についての論文を集めて、米国化学会の学術雑誌 *Crystal Growth & Design* 誌の特集号として発刊する予定である。

次回の ACTS は中国南京大学で、CGOM は英国リーズ大学でともに 2016 年に開催されることとなった。

末筆ながら、今回の合同国際会議開催に当たり、貴財団より貴重な援助を賜り、厚く御礼申し上げます。